

Mark Novak 博士の講演に学ぶ (報告)

—大学開放の将来へ向けて—

川 野 卓 二*

What we learn from Dr. Novak's lectures on the prospects of university extension.

Takuji KAWANO

学術交流協定の更新のために再来徳された San Jose 州立大学の Mark Novak 教授による2つの講演内容を紹介する。生涯教育は、これまで大学と組織の中で周辺的な位置を占めていたが、社会の変化に合わせてそのあり方も変化してきている。技術革新により生じた社会環境や教育環境の変化をプラスの力として、国際的プログラムの企画実施に努め、オンラインアクセス環境による教育を提供するチャレンジに 대응していくことが重要である。その際、様々なプログラムの中に統一的連携構造が構築されていることが成功への重要な鍵になると考えられる。

San Jose 州立大学 (カリフォルニア州立大学サンノゼ校) の Mark Novak 教授を2007年12月1日から7日までの間、徳島に迎え、同校との間で締結している学術交流協定の更新を行い、2つの講演会を開催することができた。1つは、「生涯教育：21世紀のチャレンジに 대응する」(Continuing Education: Meeting the Challenges of the 21st Century) と題され、一般受講者を対象とした内容であり、12月4日に開催された。翌日には、「生涯教育ユニットの構造：21世紀へのチャレンジ」(Continuing Education Unit Structures: Challenges for the 21st Century) と題した講演が生涯学習・生涯教育の関係者を主な対象者として行われた。本稿は、それらの講演の内容を紹介し、大学開放の将来について考察することを目的とする。

講演1：「生涯教育：21世紀のチャレンジに 対応する」

今日の大学は、21世紀を迎えて多くのチャレンジに遭遇している。それは、社会が大きく変化していることに合わせて、大学自身も変化していかなければならないことを示している。San Jose は、サンフランシスコ湾の南端に位置しており、シリコンバレーと呼ばれている地域がそこにある。San Jose 州立大学の生涯教育に対して、市場の動向が影響を及ぼしており、また、産業界、

*徳島大学大学開放実践センター

経済界の動向も生涯教育の変化を方向づけている。

San Jose 州立大学は、カリフォルニアでの最初の公立の高等教育機関として1857年に設立された。1590人の専任教員が勤務し、そのすべての教員はそれぞれの分野で Ph.D. もしくはその領域の最終学位を取得している。今年ちょうど創立150周年の記念すべき年にあたる。

高等教育機関の中の生涯教育部門は大きな変化の中にあり、市場、経済、産業界が激しく変化している。独立採算が期待されている機関として、また、利益を生み出す学内の機関として機能している。世の中の変化に対して、また職業面での変化やニーズに敏感でなければならない状況にある。

今日の生涯教育は3つのチャレンジに直面していると考えられる。まず、第一には、技術革新があげられる。様々な領域で知識や技術のレベルを最先端のレベルにまで高めておく必要がある。次に、教育自体が全世界的な規模のことがらを国際的な視野に立ってプログラムを提供しなければならないようになってきている点である。そして、第三は、アクセスの問題である。いろいろなプログラムを開発しても、それに接近することが容易になされなければ影響力は小さいものになってしまう。現在ではオンライン学習によってそれが可能になってきた。これらを順に見ていくことにする。

まず、技術革新という側面を考えてみよう。San Jose 州立大学が位置するシリコンバレーでは、そこで働く43%の労働者が学士号またはそれ以上の学位をもっている。これは、他の地域に比べると19ポイントも高く、米国内でもっとも高い割合である。有数の大学が近辺に点在していることが、シリコンバレーの成功の理由の一つに挙げられる。

技術革新は、繁栄や QOL の向上をもたらす原動力になると考えられる。しかし、現状は、技術革新が教育現場に対して多くのチャレンジをもたらしているといえる。まず、熟練労働力が高齢化しており、老年期、若年期の労働者にも再訓練が必要になる。技術革新によって新しく出現した領域に関する訓練も必要である。

これからの話は、アメリカの現状についてであるが、日本のこれからのについてもあてはまるものと思われる。まず、2010年までには、約1500万人の高い技術力をもった労働者が地球規模で不足してくると考えられている。これは、ある特定の地域でというのではなく、全世界的視点でという意味である。そこで必要になる能力は、言語、技術、人間関係力などである。人口ピラミッドで見ると、40歳から55歳のところが最も大きな比率を占めている。これらの人々がこれからどんどん退職、引退期に入り、その後続く年齢層は、技術的にも未熟な労働力が続いていることになる。このような状況で来るべき労働力不足に 대응するために学位プログラムが必要とされてきており、国家レベルで、専門職科学修士プログラム (Professional Science Master : PSM) と呼ばれる新しいプログラムの設置が支持され、期待されている。地域の産業界もそれらのプログラムを支持しており、諮問委員を大学に送り、企業のニーズに合ったプログラムを実施するという、これまで自分たちだけでいろいろな自治を享受してきた大学にとって新しい経験をすることとなっている。

新生労働力の需要に合わせるために、どのようなプログラムを組めばよいかを考える際には、次

のような視点から眺めることができる。第一に、今後、最も給料が良いと考えられている職業は何かという視点である。そのような領域と関わりがあるプログラムを提供することが求められる。(図1参照) ネットワークシステム管理やデータ分析, 医師補助, ソフトウェア技術者, データベース管理者, コンピュータシステム分析者など, 情報技術関連, 医療関連の理系職へ高い賃金が支払われると見込まれている。

さらに、今後成長が見込まれている新しい仕事についても考慮する必要がある。ヘルスケアの実践や教育訓練に携わったり, 図書館で働き情報科学を実践したり, コンピュータや数学に関連した領域の仕事が特に多く見込まれている。(図2参照)

専門職科学修士プログラムは、科学または数学領域に関連した高度なトレーニングを受けると同時に、雇用者によって高く評価される職場スキルについても開発することを目的とした学位プログ

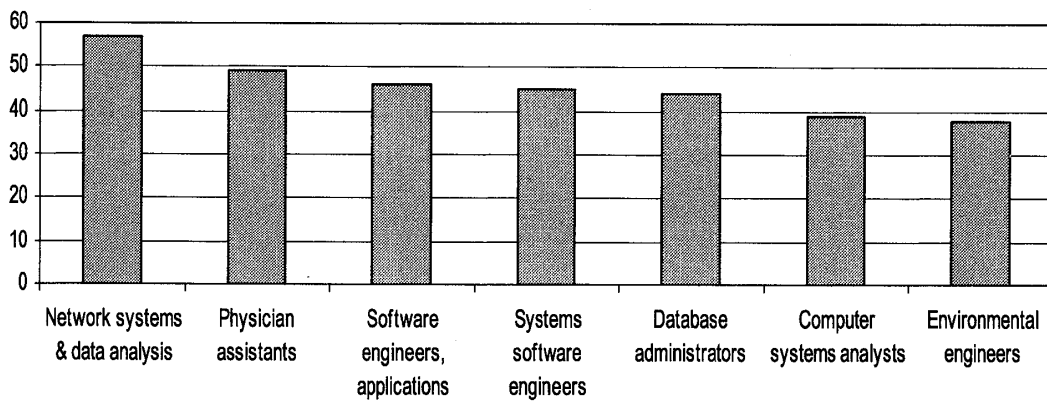


図1 成長著しく給料が高い職業 2002 - 2012 (%)

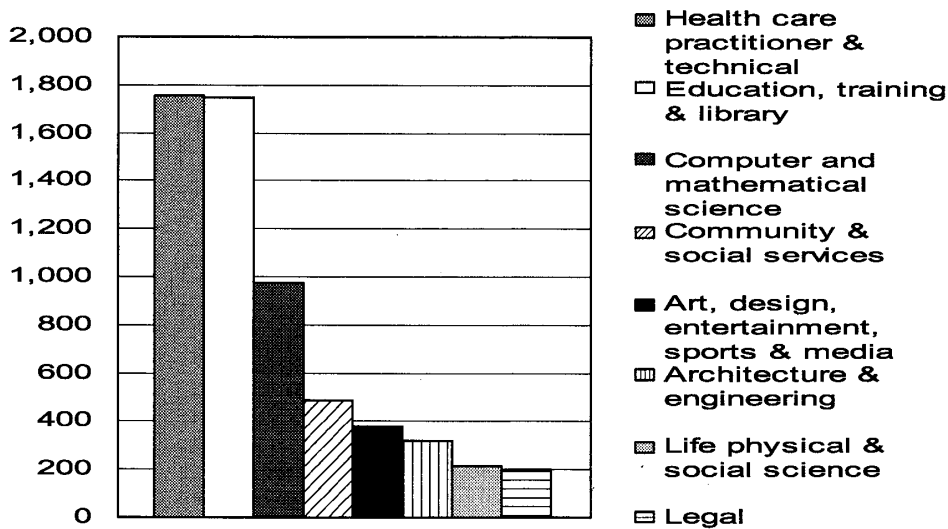


図2 新しい仕事の見込み 2004 - 2014年 (単位: 千人)

ラムである。様々な学際領域に関わるアカデミックトレーニングと、ビジネスやコミュニケーションにまたがる領域で専門職に関わる要素についてインターンシップを受けるという2年間のプログラムであり、現在と将来のキャリアを結びつけるように計画されている。全てのプログラムは、産業界と連携をとりながら開発されている。それらの領域に関わる専門家を教育することは、伝統的な学部はあまり得意ではない。そのため、生涯教育部が大きな役割を果たすことになる。

San Jose 州立大学では、次の領域で専門職科学修士 (PSM) プログラムを実施・計画している。

バイオテクノロジー

生物統計学

臨床試験管理

健康管理情報科学

法規関連

図書館情報科学

MBA と MSE の統合工学

産業界は、大学が即座に産業界からの要請に反応することを望んでいるが、大学が持っている特徴としては、一つの決定がなされるまでに多くの時間がかかることが挙げられる。上に示したプログラムは、様々な領域にまたがる学際的なものになっており、これまでの伝統的な学部単位の活動には適していない。また、その伝統的な学部に属している教員は、これらの多領域にまたがる分野での訓練を受けていない。このようなことから、生涯教育部は、教育機関内でこの種の変革を進めるのに適した部局となる。

国際的なプログラムを提供することが生涯教育にとっての第二のチャレンジである。現代のような知識経済社会においては、大量の高等教育に簡単にアクセスできることが基盤となる。もし、そのような状況が確立されなければ、世界中の若者の明るいはずの未来は暗くなる。San Jose 州立大学では、国際プログラムを行っており、世界の様々な国からの受講者を得ている。また、アメリカ言語学のプログラムについて言えば、この30年間で最も多くの登録者数を抱えており、収益も30%増加している。しかし、個々のプログラムには、それぞれに固有のチャレンジが存在している。第二外国語プログラムでは、不安定な市場を背景にして将来の下降的な変動に備えなければならない。また、国際的なイベントや政治的な変動もプログラムの将来を左右するようになるため世界情勢から目が離せない。

国際的指導者プログラムでは、2003年以降、19のプログラムを実施しており499名の修了者を数えるに至っている。だんだんと会計監査、技術革新、遠隔通信、地理情報処理システムなどの専門的な訓練領域にプログラムが進展していている。これまでに8つのカレッジで70存在する学部の中の66の学部が参加した。ロシアのエカテリンブルグからの派遣団にたいして行ったプログラムが最初のものであった。最近、中国石油や大慶油田との間で協力関係を締結している。このプログラムが抱えているチャレンジとしては、入国ビザの問題やアメリカの高等教育に関わる経費の高騰がある。また、オンライン教育を行うために必要となるインターネット環境がそれぞれの国によって

異なっていることも今後の改善を待たなければならない問題である。携帯電話で簡単に Web にアクセスできるような環境がもっと整備されることが望まれる。

最後に、生涯教育が直面するチャレンジの3番目として、このオンラインによるアクセスについて考えたい。これからの大学は、学内で伝統的な授業を行うだけでなく、キャンパス外の伝統的な教室から離れたところで学習を行う遠隔教育が盛んになると考えられている。オンライン学習はそのための最良の手段となる。2002年の秋学期には、米国で学位を授与できる大学にあって約160万人の学生がオンラインによる授業を少なくとも1科目受けていた。それが2005年の秋学期には約320万人に増加している。Alfred P. Sloan 財団ⁱ⁾の調査によると、対面的な大学院の授業を行っている大学の65%が、オンラインによる大学院の授業を開講していることが明らかになった。Eduventuresⁱⁱ⁾は、2008年の初めまでに、大学生の約10人に1人が、オンラインによる学位プログラムに登録するようになるという予測を出した。Massachusetts 大学の学長である Wilson 教授は、自分自身でもオンラインによる授業を行っている。大学全体として61のオンラインによるコースプログラムを開講しており、2002年から見ると登録学生数は4倍に増えている。また、2006年のオンラインコースによる収入は26%増加し、登録数も20%増加した。今後10年間に、生涯教育においては、通常の学部教育に比べて10倍の速さでオンライン環境を使った遠隔学習が成長するであろうと考えられている。

San Jose 州立大学で最初の eCampus プログラムが行われたのは1998年の夏であった。作業療法のプログラムでオンラインによる学習が行われたのがそれである。以降、オンライン環境を用いた授業の開講数増加に伴い、受講学生数も約3万人になっている。(図3参照)

オンライン環境を用いた学習が盛んになってきたことで、この領域に特有の新たなチャレンジが存在する。それは、新しいタイプの学生の出現である。ネット世代の学生たちは、生まれながらのデジタル社会人であり、これまでの学生とは異なる特徴を持っている。また、ほとんどの教員はデ

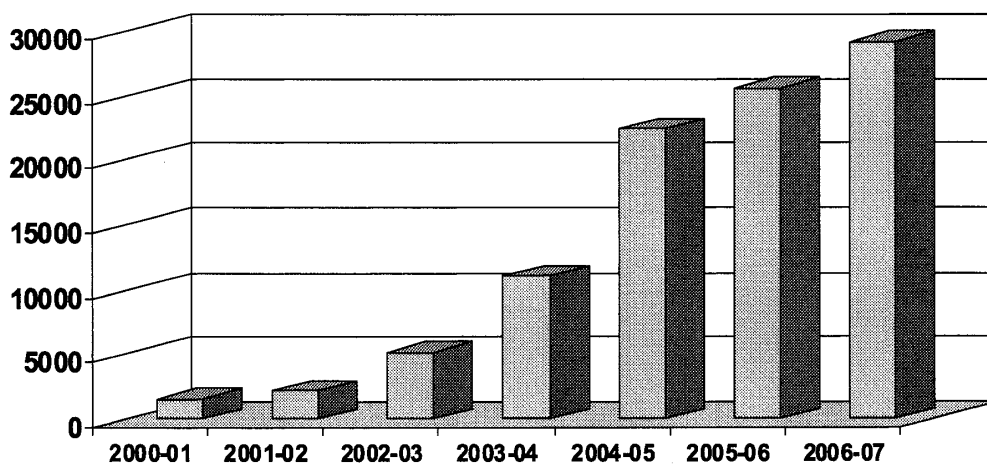


図3 サンノゼ大学における eCampus プログラムの成長 (人)

デジタル社会への移民として、この社会を乗り切ろうとしている。また、生涯教育を受ける非伝統的な学生は、教員と同じ世代、もしくはそれよりも年老いた世代である。それらの世代間に存在するデジタルディバイドの問題にどう対処するかがこれからの課題となる。

受身的な態度で静かに授業に参加する学生ではなく、活発的にいろいろな物事に関与し、批判的な思考スキルを身につけた有能な自己学習者を育てていかなければならない。そのためには、デジタル時代の教師モデルとして「舞台上の賢者ではなく、傍らにいる案内人」としての役割が求められている。

講演 2 : 「生涯教育ユニットの構造 : 21世紀へのチャレンジ」

生涯教育のユニットは、通常、他の学部とは異なった特徴を多く持っており、副学長（学問領域：Academic Vice Chancellor）に報告することになっていることが多い。組織の構造は、州からの資金を最初に受ける他の学部とは異なり、どちらかといえば、商業社会に近い構造がある。通常の学部の場合、学期の初めにはガソリンを満タンにしておく（つまり、十分な予算を確保しておく）ことが多い。しかし、生涯教育ユニットでは、空っぽの状態ですべての活動を始めるようだと例えることができる。活動を通じて余剰の資金を作り出し、それを基にしてそれ以降の活動をすすめることになる。他のプログラムを計画したり、教員の活動を支援したりする。第二の特徴として、生涯教育が対象としている学生は、通常の学生とは異なる性質をもった学生が対象となる点がある。つまり、すでに職業を持った学生が多い状況にある。また、これまで生涯教育は学内の周辺的な活動として一般的に捉えられてきた。大学の中で果たしている役割はあまり大きくはないが、社会において大切な役割を果たしており、最近では、周辺的な役割から中心的な役割を果たすようになってきたと考えられている。

第三に、新しいプログラムを作る役割を果たすようになってきている。新しいタイプの学生に対して、また、大学に対しても新しい役割を果たすようになってきた。米国の大学では、いろいろな状況が変わってきている。まず、小さな私立大学でも当てはまるかも知れないが、財政面で、特に大きな州立大学で次のようなことが起きている。カリフォルニア大学のような大きな大学では、州からの援助の額がだんだん少なくなっている。これは、教育機関自身が何らかの方法で自分たちの活動を、柔軟でどこにも返済しなくてもよいようなお金でサポートする方法を確立する必要が出てきているということになる。

生涯教育において、リーダーとなる人がどのような役割を果たしていくことができるか考えることが大切である。役割としては、管理者、マネージャー、教育家、起業家としての役割がある。その際、次の質問に答えられるようにしておかなければならない。これらの問いに対して考えていかなないと組織としては小さくなっていくことになる。ビジネス界にいる人も同じような質問をしている。それは、自分たちの置かれている市場がどのように変化しているか。また、その変化にどのように対応しようとしているのかである。地域で、世界で、どのような成長の機会があるのか。市場

の変化、経済の変化が起きていることに、生涯教育を通じてどのように関わることができるかを考える必要がある。また、自分たちのユニットがそれらの変化にどのように対応するかを考える必要がある。たとえば、インドでは、コンピュータ工学などの領域で自分たちで教育を行うことができない状況にあるので、米国で行うことをわれわれは考えている。インドで説明会を開くとたくさんの方が集まってくる。そのため、しばしば説明書を隠さなければならない状況がある。

成功するために財政構造を考える際の視点を紹介する。一つの視点は、緊急度、もう一つの視点は、重要度である。それらの視点で生涯教育で成功するために財政部門がどのような役割を果たせばいいのかを分類すると次の表1のようになる。

表1 現在の生涯教育で成功するための財政部門の役割

	緊急である	緊急ではない
重要である	I 予算の執行状況の評価	II 歳入増のための対策
重要でない	III (例)学長へ夏学期の登録者数報告	IV (例)電話使用状況報告

I, III, IVの枠にある役割を果たすことは、リーダーにとってはあまりストレスがかからない領域である。一方、IIの枠にある役割は、あまり緊急を要するものでなく、誰もそのような役割を果たすように求めてこない領域である。しかし、組織にとっては重要な領域であるので、他の誰かに委任することはしない領域である。成功するためには、このIIの枠に当てはまる役割を世界的な視野にたって果たし、対策を講じることが重要になる。

生涯教育部門のリーダーが果たす役割を理解する枠組みがもう一つ存在する。この枠組みは、学問的 vs. ビジネス的視点と内的 vs. 外的視点で分類されている。

表2 キャンパス内での生涯教育部門長の役割

	学問的	ビジネス的
内的	I 伝統的な学部長	II 学内での生涯教育リーダー 夏学期の運営管理
外的	III 伝統的な生涯教育リーダー 成人教育、労働力開発	IV 企業家/副学長 リスクと報酬、成長

上記の表において、I, II, IIIの枠にある役割は、生涯教育のリーダーがあまりストレスを感じ

ないで行うことができる通常の役割である。しかし、Ⅳの枠にある役割は、リスクもあるが、その結果がもたらす報酬も大きくなるワクワクするリーダーの仕事である。この枠に関わる仕事をするためには、多くの時間を要するが、その見返りは大変大きなものになる。この第Ⅳの枠に含まれている課題を達成するために鍵となるコンセプトは複雑な物事を単純化することであり、統一的連携構造を持つことである。組織の目標に向かってそれぞれの部局がそれぞれのやり方で個々の方向へ力を注いでも、それは目標達成への推進力になることが少ないので、それぞれの部局間に統一的連携が存在するようなやり方で仕事を進めていくことが大切である。

例として、サンノゼ州立大学生涯学習部の International and Extended Studiesⁱⁱⁱ⁾ プログラムで使用されているマーケティング用資料を見てみよう。IES の基本コンセプトは、アクセス、国際プログラム、そして革新である。それぞれのプログラムに関する Web ページやパンフレット間に上に述べてきた統一感が見られることが容易にわかる。以下は Web ページの例である。(図 4 参照)

生涯教育組織を成功に導くためには次のような点に注意する必要がある。まず、重要なビジネスに関する様々な決断は出来るだけ早めに行うことが大切であり、最終的にどのような状態にしようとしているのかをはっきりと最初にイメージできなければならない。そのためには、明確な目標

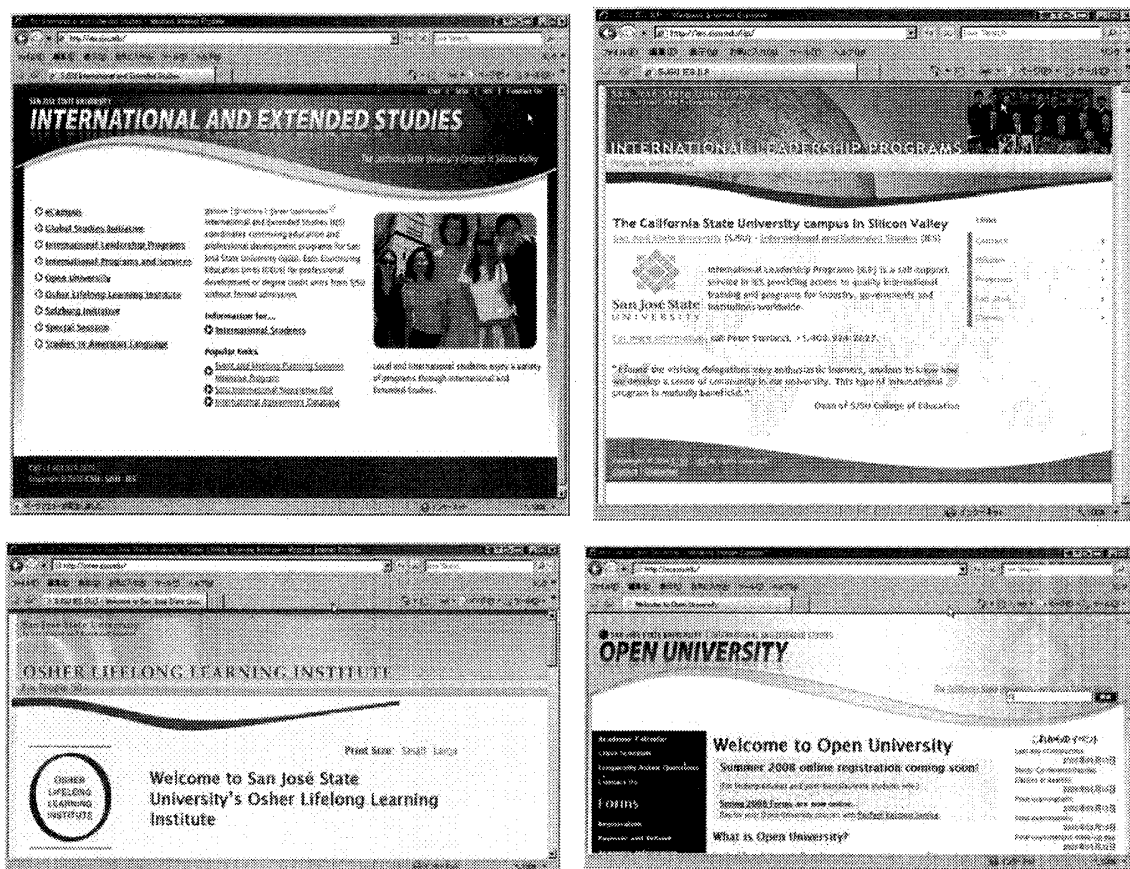


図 4 IES プログラム関連 Web ページにみられる統一的連携構造

と、確固とした基本方針が必要である。また、採算がとれるビジネスプランを遂行することが大切であるが、あまりそれにとらわれすぎてもいけない。しかし、最初から、大きな支出を伴うようなプランは避けるべきである。

さらに、成功するための組織構造を構築するためには、ユニークであることが鍵となる。他のプログラムとの違いを明らかにし、革新的なプログラムを行うことが、教育の最前線に立つ生涯教育に求められていることである。世の中が求めているものは、もう一つの何か (X) ではなく、何かユニークなものである。自分たちが行っていることにおいて最善をつくしていることでよしとせず、私たちが行っていることが、世界中で我々しか行っていないようなことを行いたいと思うべきである。何かユニークなセールスポイントを見つけたり、他との差別化を図ったりすることで成功への道に一步踏み出すことができる。その時は、何か大きな、少しは危険が伴うかもしれないが厚かましいと考えられるくらいのゴールを持つことが大切になる。

まとめと考察

大学内の生涯教育部門は、社会や教育的変化の最前線に立っており、世界的社会教育環境の変化からのチャレンジに応えるために、技術革新が激しい産業界からのニーズを満たす新しい学位プログラムを開発したり、より専門領域に特化したプログラムを提供したりすることでこれからも大きな貢献をなすことができる。また、eラーニングを通じてさまざまなタイプの学生が持つニーズにも応えることができ、今後、オンライン学習プログラムを強く進めることによって教員が新しい教育方法の持つ可能性を十分に認識し、教育者としての新しい役割を担うことを助けることができると考えられる。

しかし、実践センターが、サンノゼ州立大学でのプログラムをそのまま取り込んでeラーニングによるオンライン学習プログラムの推進に取り掛かろうとしても、インターネット社会としての成熟度は日米間でまだまだ大きな差があるように思われるので、時期尚早の感が否めない。公開講座科目の中に、ネット利用を学ぶだけでなく、ネットを利用して学ぶ方法を学ぶことを目的とした科目を開設し、eラーニングやオンライン学習への啓蒙科目を通じてネット社会の成熟にむけた活動を展開することが重要であると思われる。

徳島大学の大学開放実践センターは、開設以来すでに20年以上が経過している。最初は、大学開放に関する学内の拠点として、公開講座を中心に様々なプログラムを企画運営してきた。最近、もう一つのFD推進という機能が加わり、大学開放・生涯学習研究開発部門と高等教育支援研究開発部門の2部門体制で事業を進めている。両部門が行っている活動は、生涯教育という視点から一つにまとめて見ることが可能である。一般社会人に対する大学開放は公開講座を通じた生涯教育と見ることが出来、大学教員、学生、職員に対するFD活動は大学教育の質向上のための生涯教育と見ることが出来る。生涯学習センターである実践センターが、これからFDセンターとしての機能をも備えるセンターとしての役割を果たすために、今回のNovak教授の講演は、実践センターの

将来像を考えるうえでとても有益な示唆を与えてくれるものであった。

【参考資料】

Novak, M. (2007). Continuing education: Meeting the challenges of the 21st century.

[12月4日配布講演会パワーポイント資料]

Novak, M. (2007). Continuing education unit structures: Challenges for the 21st century.

[12月5日配布講演会パワーポイント資料]

SJSU International and Extended Studies. (<http://ies.sjsu.edu/>)

SJSU International Leadership Programs. (<http://ies.sjsu.edu/ilp/>)

Osher Lifelong Learning Institute. (<http://osher.sjsu.edu/>)

Welcome to Open University. (<http://ou.sjsu.edu/>)

(注)

- i) 1934年に Alfred P. Sloan, Jr. によって設立された非営利慈善団体：科学と技術、生活水準と経済パフォーマンス、科学と技術分野の教育と職業などの5つの領域に対して資金援助をしている。
- ii) 教育産業界の共同研究やコンサルティングを推進するために、大学や教育に関連した企業に対して、教育改善のために役立つ費用効率がよい、データに基づいた洞察、理解、指針などを提供している企業。1993年に Michael R. Sandler によって設立された。本部は、マサチューセッツ州ボストンにある。
- iii) サンノゼ州立大学生涯学習部で実施されている職業開発プログラムを含む様々な学習機会の総括的な呼称。